

## 語り合いのシンポジオン交流会2015

第14回 実務者・教育者・研究者の討議の集い2015 in 神奈川

テーマ：なし

主催 シンポジオン世話人会

---

|    |  |   |
|----|--|---|
| 目次 | 1. 交流会、討議の集い、会場風景 . . . . .            | 1 |
|    | 2. 寄稿文 アニメ「おおかみこどもの雨と雪」の世界にて . . . . . | 2 |

End= 2

---

### 【1】 交流会

名称：学生による語り合いのシボジボ交流会

日時：2015年9月5日(土)17:30～19:30

会場：東海大学前駅前の居酒屋

参加者5人：職業人4人、学生1人

様子：午後のシンポジオン語り合いが、夜の部にも行われた。

夜の部はテーマなしで、保存再生、人生論、住まい手の建築など、広範囲に意見を述べ合った。

### 【2】 討議の集い

企画については、今年もまた懇親会の席上での集いとなり、大いに討議することになった。今回は、学生1人に社会人4人という超少数精鋭となり、前半のシンポジオンの話に加えて、今日的に建築的に問題となっている、新国立競技場問題やエンブレム問題が熱く語り合われた。お酒が入ったことにもよるが、大変な盛り上がりであった。なお、今回も投稿文が寄せられ、懇親会に色を添えていた。

#### <1> 会場風景

今回は6人テーブルに着座して、おいしい和食を食しながらの懇談となった。参加した職業人は、設計2人、市民運動1人、木工加工1人の計5人であり、学生を中心に職業人との交流が図られていた。

職業人2人は若者に混じって、若さを取り戻したかのように(もともと若かったのだろう)、エネルギー溢る語り合いとなった。



## 2. 寄稿文

# アニメ「おおかみこどもの雨と雪」の世界にて

2015.09.05 Togashi

アニメ「おおかみこどもに雨と雪」が空前のヒットとなりました。あらすじは、母と子ども2人が住みにくくなった都会を離れ、田舎の山村にきて農業をいとなみながら、自然の中で子どもが母の愛のもとたくましくすくすくと育っていく、というものです。親が主人公とあって、世代を超えて若者はもちろんのこと多くの親子の方々が鑑賞し、大変感動されておられました。

皆さんは、まず舞台環境を写実的に大変きめ細かく描きこまれたことによる人間描写にびっくりし、続いて大自然のもとでの愛と育ちという人間としてのごく自然なことに感動したのです。

このためか、どうしてもアニメ舞台の世界を見たいとして、場所を公表していないにもかかわらず、モデル地には連日、家族連れや若者が土日は20人を超えるくらい訪れています。モデル地は低い山が連なる静かな雰囲気山村でそこに古民家があります。来訪者はふもとから40分もかけて道々自然を満喫しながらやってこられるのです。

訪れた方々に「何に感動しましたか」と聞きますと、女性の方々は「母と子のきずなや子育てに感動」と言われ、男性の方々は「なかなかうまく言えないけれども感動した」とのことでした。また、古民家につ



いてはどうですかと聞いたところ、「匂い、澄んだ空気、落ち着く」といった感覚的なことは当然の事、「古民家とそこに住む方々に魅せられ感動した」と言われる方もおられました。まさに、感動の核心は人間ドラマだったのでしょう。だから、彼らはアニメの舞台に(複数回)来て、舞台を「見る」のではなく、舞台で演じられるドラマを「堪能する」のです。

一方、子どもはと申しますと、あたかもアニメの世界に入り込んだかのように、庭で遊んだり、絵を描いたり、しまいに家の中を走り回り、ごく自然な光景でした。また、子どもが親に「おおかみこども」の絵本を読んでもらっているうちに、絵本に描かれた親子の愛情に感極まって親も子も泣きだし、まわりにいた方々ももらい泣きするという事もありました。

皆さんの古民家でのくつろぎをみていますと、古民家という非日常空間の中で、来訪者全員があたかも大家族を構成しているかのように、日常性に感動し楽しんでます。

そこには何の仕掛けも何の施設もなく、あるのはごく普通の自然とごく普通の人間であり、人間と自然と一緒に風景風土を作っているのです。そうした風景



の中で、子どもがおおり、親がおおり、様々な来訪者がおおり、和やかなコミュニケーションがなすドラマは、ありのままをありのままとする本当にいい光景ですね。

建築の観点からアニメの情景をどう守っていくかについては、別途にお話します。

